

調査の趣旨と実施方法

(1) 趣旨

- ・静岡県多文化共生推進基本計画策定の基礎資料とするため、県内に在住する日本人及び様々な国籍の外国人を対象に、外国人との共生に関する日本人の意識や外国人の生活や就労の実態等を調査した。
- ・本報告書作成にあたっては、可能な範囲で、静岡県が実施した先行する以下の2つの調査との比較を行った。

平成 21 (2009) 年度 静岡県多文化共生アンケート調査

平成 28 (2016) 年度 静岡県多文化共生に関する基礎調査

なお、各グラフにおいて当該年度に設問がないものは、数値を表示していない。

(2) 調査の概要

ア 対象者等

区 分	内 容
対 象 者	県内に居住する 16 歳以上の日本人及び外国人
対 象 市 町	静岡市、浜松市、富士市、焼津市、磐田市 計 5 市
外国人の国籍	令和元 (2019) 年 6 月末現在の県内の上位 8 カ国 (ブラジル、フィリピン、中国、ベトナム、韓国・朝鮮、ペルー、インドネシア、ネパール)
抽 出 数	対象市の住民基本台帳 (8 月 1 日現在) から、該当する日本人 1,000 人及び外国人 4,000 人、計 5,000 人を無作為抽出
調 査 方 法	アンケート用紙、返信用封筒 (料金後納) を同封し郵送 オンライン回答用の QR コードも併せて同封し、どちらかで回答 ※外国人へは母国語版と日本語版を送付
主な調査事項	日本人：属性、外国人との交流状況、行政に求める施策等 計 11 問 外国人：属性、日本人との交流状況、子どもの教育、行政に求める施策等 計 36 問

イ 市別対象者数

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国・朝鮮	ペルー	インドネシア	ネパール	合計	日本人
1 静岡市	283	161	112	100	49	44	32	19	800	200
2 浜松市	284	161	112	100	49	44	32	18	800	200
3 富士市	284	162	112	100	49	44	31	18	800	200
4 焼津市	284	162	111	100	49	45	31	18	800	200
5 磐田市	284	161	112	100	49	45	31	18	800	200
合計	1,419	807	559	500	245	222	157	91	4,000	1,000

※外国人の国籍別人数の割り当てについては県内人口比とし、国籍ごとの人数は各市に均等に割り当てた。

※日本人は各市に均等に割り当てた。

(3) 回収結果

ア 日本人調査

	オンライン 回収 a)	郵送 回収 b)	重複による 無効ケース c)	その他の 無効ケース d)	データ確認後 有効回答数 a+b-c-d
総数	99	319	2	1	415

※その他の無効ケースは「本人病気のため回答不可」と回答（以下白紙）のケース

イ 外国人調査

	オンライン 回収 a)	郵送 回収 b)	重複による 無効ケース c)	その他の 無効ケース d)	データ確認後 有効回答数 a+b-c-d
総数	462	1,165	34	0	1,593
調査票言語別内訳					
ポルトガル語	121	312	12		421
フィリピン語	101	242	15		328
中国語	56	138			194
ベトナム語	82	82	6		158
韓国・朝鮮語	4	23			27
スペイン語	-	53			53
インドネシア語	-	47			47
ネパール語	-	17			17
日本語	98	251	1		348

※スペイン語、インドネシア語、ネパール語については、オンライン回収は実施しなかった

(4) 調査項目

ア 日本人調査項目

基本属性	性別、年齢、居住市、自治会加入
多文化共生に関わること	外国人との付き合い、外国人への親しみ、「やさしい日本語」の認知度、多文化共生に関する意見、外国人に対する差別の認知、行政の取り組むべき課題、外国人増加の影響

イ 外国人調査項目

基本属性	性別、年齢、国籍、在留資格
日本での生活	日本での通算滞在年数、今後の滞在予定年数、居住市、一緒に住んでいる人の種類、住まいの形態、住まいを探す際に困ったこと
日本人との関係	日本人との付き合い、日本人への親しみ、被差別意識、相互理解のために外国人がすべきこと、自治会への加入、非加入の理由、団体・行事への参加

防災・防犯	災害時における情報の入手方法、災害への備え、地域の治安・防犯、日本の交通ルール学習
日本語の能力	日本語での会話能力、日本語を読む力、日本語を書く力
社会との関係	生活情報の入手方法、困ったときの相談先、病気やけがをした際の対応
子どものこと	同居している6～15歳の子どもの数、子どもの最もよく話せる言語、子どもの就学、子どもの学力に対する心配、子どもの日本語学習、子どもの将来、子どもの教育で困ったこと
現在の仕事	現在の就業形態、現在の仕事の内容、職場での活躍のために希望すること
行政への要望	市や県に望む行政サービス

(5) 調査の受託者及び研究チームの構成 (【 】内は本報告書の執筆分担)

調査受託者

池上重弘 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授)

インドネシア語監修

【概要、日本人調査、外国人調査 (基本属性、日本での生活、行政への要望)】

研究協力者

高畑幸 (静岡県立大学国際関係学部教授)

フィリピン語監修

【外国人調査 (日本語の能力)】

ヤマモト ルシア エミコ (静岡大学教育学部准教授)

ポルトガル語監修

【外国人調査 (子どものこと)】

千年よしみ (国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第一室長)

調査データ入力・集計監修、クロス集計表作成

【外国人調査 (日本での生活、日本人との関係、防災・防犯、社会との関係)】

中川雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第三室長)

調査データ入力・集計監修、単純集計表作成、クロス集計表作成

【外国人調査 (現在の仕事)】

外国語版調査票監修協力

岡田建志 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授) ベトナム語監修

武田 淳 (静岡文化芸術大学文化政策学部准教授) スペイン語監修

羅 沢宇 (静岡文化芸術大学英語・中国教育センター特任講師) 中国語監修

調査資料とりまとめ協力

MIYASAKI GABRIEL MATHEUS MAKOTO (静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科1年)

甲谷あゆみ (静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科4年)

山澤 嶺 (静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科4年)

